

事業所名 グループホームうらら
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 3月19日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A: 現職 生活指導員
資格・経験 介護支援専門員、N-Aヘルパー2級、社会福祉主事、訪問介護員
B: 現職 元介護支援専門員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

郊外の田園地帯にあり、JR茶屋町駅より徒歩15分、駅やスーパーも近くであり、外出・買い物等生活に便利な場所である。また、周囲には田畑・水路があり、落ち着いたのどかな環境である。

倉敷市内に系列の医療施設・高齢者福祉施設があり、いつでも安心して医療・福祉のバックアップが受けられる。

外出支援には特に力を注ぎ、「岡山うららで行ったよマップ」を作って各地に積極的に出かけ、四季の移り変わりを楽しむ等社会参加の支援をしている。

同じ敷地内に隣接してデイサービス施設があり、共有の畑でキャベツ・チンゲンサイなど旬の野菜を栽培して食材に活用するなど、高齢者同士の密接な交流は認知症緩和に効果を上げている。

職員全員による自主評価を実施しており、職員の資質向上を図ると共に、職員との関係にも配慮している。退職者も無く、人的に安定した介護は入居者に精神的な好影響を与えている。また、「個人情報保護方針」を設け、入居者個人を尊重する等、介護サービスの資質向上に向けた母体法人の積極的な取り組みが感じられる。

全居室に洗面台が置かれ、トイレが付いた居室もある。入居者のニーズに対応すべくサービスに多様性を持たせている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

食事作りは入居者と共に行っているが、職員は弁当持参であった。家族と同じ物を一緒に楽しく食べるというグループホームの「食事」の意義について検討し、新たな方針を打ち出し、より潤いのあるホームとなっていくことを期待する。

職員会議・チームケア会議等を開き、問題点等について検討を重ねている。記録の整備を充分に行うことでチームケアの質が充実し、サービスの向上に繋がっていくことを期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <p>「グループホームうらら」は、第二の家庭として入居者の自由意志を中心とし、無理強いをせず見守りを中心とする支援を行うよう努力している。</p> <p>職員は、自由で明るい生活の中にも安全・安心をモットーに、入居者が平穩の内に毎日を過ごせることを意識し、努力している。</p> <p>管理者以下職員はケアの協働に留意して共同生活のサポート役に徹し、入居者主体のその人らしい生活が出来るような介護支援に取り組んでいる。</p> <p>日常会話の中から過去の生活歴を汲み出し、入居者それぞれの能力・経験を生かして生き甲斐に繋がる豊かなホーム生活を目指している。</p> <p>「子供110番」として近所の子供たちへの緊急避難場所を提供するなど、地域に溶け込み、かつ地域との連携・貢献を目指している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>職員は私服にエプロン姿で勤務しており、ホームの温かい家庭的な雰囲気大切に、入居者がアットホームな雰囲気の中で暮らせるように配慮している。</p> <p>入居者の安全、安心なホーム生活を念頭に、職員はきめ細やかな心配りと観察力を常に養うように心掛けている。</p> <p>入居者は大切な家族の一員としての役割を果たすべく、自分の得意なことを生かし、自分たちで一緒に作った作品を掲示するなど生活場所としての実感を味わい、生き甲斐を持ってもらうよう取り組んでいる。</p> <p>観葉植物・鉢の草花等を多く取り入れ、入居者に温かさと安らぎを感じてもらい、気持ちや和らげるように努めている。</p> <p>共用空間には畳のコーナー、玄関にはソファがあり、入居者は一人で、または皆と一緒に自由に時間を過ごすことができ、入居者が落ち着いて毎日を暮らせるように配慮している。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>入居者の過去の経験・能力を把握し、日々の会話の中に本人の記憶を呼び覚まし、出来ること・したいと思うことを積極的に行ってもらうようにして、入居者の生き甲斐の引き出しに取り組んでいる。</p> <p>個人の記録類は事務所の棚に保管して確実に管理しており、入居者のプライバシーの保護に徹している。</p> <p>居室には洗面台を設置し、洗面・口腔の手入れ・整容等行う際にはプライバシーが守れるよう配慮している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <p>職員全員、自主評価を実施しており、常に自ら進んで介護内容の改善、サービスの資質向上に向けて取り組んでいる。</p> <p>職員は入居者の状況・変化を常によく観察しており、転倒等事故防止対策や身体機能低下防止を念頭に置いた改善・工夫等を行い、ケア技術・介護サービスの向上に結びつけるように努力している。</p> <p>事故・ヒヤリハットの事例は記録に残し、職員間で検討を重ねている。検討結果や内容の申し送りを徹底し、全員が共有して再発防止に努めている。</p>		